



知財のビジネス価値評価 検討タスクフォース（第8回会合）

事務局 説明資料

平成30年11月1日

内閣府
知的財産戦略推進事務局

大目的：企業等が環境変化を先取りし、新しい価値をデザインし、それを実現していく

中目的：①環境変化の兆しに気づき、自社の強みを活かしつつビジネスモデルを革新させる必要性について認識するよう促す
②長期を見据え、自社の価値観に応じた将来を構想するとともに、それに基づく効果的な資源配分を促す



手段：経営デザインシートの考え方を企業規模を問わず普及させる



【想定される効果の例】

- ・ボードメンバーにより、長期を見据えた将来の構想について活発に議論がなされ、将来の方針が共有される
- ・企業等からステークホルダーに対して、将来の構想の説明が適切になされ、企業等の創出しようとする価値に対する共感者を集めやすくなる
- ・経営層が高齢であるが有望な企業等（同業他社並み以上の業績を上げている・上げることができる企業等）の事業承継が促される

- ① 企業・企業支援者等にアクセスし、普及啓発をする。さらに、経営デザインシートに触れた方にインフルエンサーになっていただく。
- ② 自社の強みを活かし、新しい価値をデザインし、それを実現しようとする企業等において、活用が促進される仕組みをつくっていく。

【経営デザインシートの講演・セミナー】

※括弧内は、対象者、開催場所、対象人数の順で記載
委員にご対応いただいたもの/いただくものは【委員】と記載
一般応募可能の講演・セミナーは★を付す

◆実施済み講演・セミナー

- ・ **中国経済産業局 中国地域における知財支援人材の育成に関する調査・研究事業 8/23**
(中小企業診断士等、広島、約15名)
◆経済産業局と連携
- ・ **関西知財セミナー 8/31 ★**
(企業や金融機関、大阪、約100名)【委員】
- ・ **日本弁理士会 弁理士継続研修 9/4**
(弁理士、東京ほか(ネット中継)、約200名)
- ・ **巡回特許庁 in 浜松 9/10 ★**
(企業の研究・知財・経営者等、浜松、約50名)
【委員】 ◆特許庁と連携
- ・ **JEITA 特許専門委員会 9/14**
(企業知財部、東京、約30名)
- ・ **福岡財務支局 金融機関向けセミナー 10/3,4 ★**
(金融機関、福岡、約30名×3回) ◆財務局と連携
- ・ **東京都知財総合支援センター セミナー 10/5**
(中小企業知財・中小企業支援者等、約30名)
- ・ **巡回特許庁 in KANSAI 10/16 ★**
(企業の研究・知財・経営者等、大阪、約40名)
【委員】 ◆特許庁と連携

◆実施予定の講演・セミナー

- ・ **日本大学知的財産研究会 11/14**
(学生・社会人等、東京、約80名)
- ・ **ケーブルテレビ連盟 経営者塾 11/16, 2/1**
(経営者、東京、約20名)
- ・ **日本弁理士会 弁理士継続研修 11/26**
(弁理士、東京ほか(ネット中継)、約200名)
- ・ **東京理科大学 社会人向けセミナー 11/24 ★**
(社会人学生、東京、約50名)
- ・ **巡回特許庁 in 中部 11/29 ★**
(企業の研究・知財・経営者等、名古屋、約50名)
【委員】 ◆特許庁と連携
- ・ **WICI Japan シンポジウム 11/30 ★**
(統合報告作成者、東京、約100名)
- ・ **エグゼクティブ知的財産時事懇談会 12/12**
(知財関係者、東京、約50名)
- ・ **Future Center Alliance Japan 1月(仮)**
(イノベーションに感心の高い者、東京、約40名)
- ・ **WICI Japan 統合報告セミナー(全3回)1,2月 ★**
(統合報告作成者、東京、約20名)【委員】

【講演・セミナーの中で経営デザインシートをご紹介いただいたもの
／ご紹介いただく予定のもの】

・大阪銀行協会

「銀行の日記念『顧客本位の地域金融』」7/3

（金融機関、大阪、約60名）【委員】

・事業承継ネットワークに関する地域協議会 9月～12月

（事業承継支援機関、全国6地域、各約50名）

◆中小企業庁と連携

・日本商工会議所・東京商工会議所主催のセミナー 10～12月

（経営者等、東京、計約110名、職員の方）

・中小機構主催の事業承継フォーラム 11～12月

（経営者等、全国3地域、各約150名、職員の方）

◆中小企業庁と連携

・知的資産経営WEEK2018 11～2月

2018年11月～2019年2月に開催される各団体のセミナー等におけるご紹介 ◆経済産業省と連携

・企業支援に関するセミナー・講演、金融機関向けセミナー・講演 11月～

2018年11月以降の金融庁の方のセミナー・講演におけるご紹介 ◆金融庁と連携

・日本動産鑑定・知的資産活用センター

事業性評価アドバイザー養成認定講座 11/16

（金融機関、東京、約20名）【委員】

・成城大学社会イノベーション学部（特別講義）

『日本経済論』12/6

（学生、東京、約100名）【委員】

・中小企業基盤整備機構

『中小企業大学校・虎の門セミナー』12/13

（認定支援機関、東京、約100名）【委員】

・中小企業基盤整備機構・中小企業大学校関西校

「平成30年度地域金融機関職員研修」1/17

（金融機関、兵庫、約20名）【委員】

・中小企業基盤整備機構・中小企業大学校東京校

「中小企業診断士養成課程」3/5

（金融機関、信用保証協会、商工会議所等、東京、約50名）【委員】

(参考) 中小企業庁との連携 平成30年度「事業承継フォーラム」開催概要

- (1) 開催名称 「平成30年度事業承継フォーラム ～企業の未来へ、決める、託す、挑む～」
(2) 会場、開催日、定員 等 **(中小企業基盤整備機構 主催)**

	仙台市	大阪市	福岡市
開催日	平成30年12月10日	平成30年11月19日	平成30年12月5日
開催会場	ホテルメトロポリタン仙台	ナレッジキャピタル コングレ コンベンションセンター	J R九州ホール
定員	150名	150名	150名

(3) 当日プログラム

- 13:00～13:35 主催者挨拶
 13:35～13:40 関係機関挨拶
 13:40～14:40 基調講演「未来戦略として取り組む事業承継」(仮)
 14:00～15:10 行政インフォメーション
 15:30～17:00 パネルディスカッション「変革の時代、経営者と後継者の指名とは」(仮)

行政インフォメーションの枠で10～15分程度
「経営デザインシート」の紹介



基調講演
「未来戦略として
取り組む事業承継」

市場環境が大きく変化し続ける現代社会において、経営者は常に経営改革に取り組みなくてはなりません。後継者が、挑戦できる環境を整えリポートするのが経営者の役割です。これまでの実績や信頼を生かしながら会社の将来を託す、まさしく「未来戦略」としての事業承継への取り組みについてお話しいただきます。

●各会場の詳細は以下の通りです

パネルディスカッション
「変革の時代、経営者と
後継者の使命とは」

事業承継を会社の永続・成長の手段と考えるのならば、共通の課題や解決方法が見えてきます。経営者は会社の未来のために何を託し、サポートするのか。後継者は託された未来のために何を引き継ぎ、挑戦していくのか。パネリストに、企業経営への思いについてお話しいただきます。

※ご来場の際は公共の交通機関にてお越しください

大阪会場	福岡会場	仙台会場
<p>日程 11月19日(月)</p> <p>会場 コングレコンベンションセンター ホールA ナレッジキャピタル グラフフロント大阪 北館 地下2階</p> <p>日程 13:30～17:00 定員 150名 (開場13:00～)</p> <p>基調講演 株式会社中農製作所 代表取締役会長 中農 康久氏</p> <p>パネルディスカッション 大塚産業マテリアル株式会社 大塚 敬一郎氏 (代表取締役会長) 大塚 誠慶氏 (代表取締役社長) 株式会社シオノ蒲工 塩野 正人氏 (取締役会長) 塩野 浩士氏 (代表取締役)</p>	<p>日程 12月5日(水)</p> <p>会場 JR九州ホール JR博多駅西口 駅ビル(S-PAL)9階</p> <p>日程 13:30～17:00 定員 150名 (開場13:00～)</p> <p>基調講演 オタフクホールディングス株式会社 代表取締役社長 佐々木 茂喜氏</p> <p>パネルディスカッション 織月酒造株式会社 堤 正博氏 (代表取締役会長) 堤 純子氏 (代表取締役社長) 株式会社筑水キャニオン 包行 均氏 (代表取締役会長) 包行 良光氏 (代表取締役社長)</p>	<p>日程 12月10日(月)</p> <p>会場 ホテルメトロポリタン仙台 (4階千代) JR仙台駅西口 駅ビル(S-PAL)9階</p> <p>日程 13:30～17:00 定員 150名 (開場13:00～)</p> <p>基調講演 北星鉛筆株式会社 代表取締役社長 杉谷 和俊氏</p> <p>パネルディスカッション 株式会社さきま 佐々木 圭亮氏 (代表取締役) 佐々木 亮氏 (常務取締役) 株式会社ハイサープウエノ 小越 憲泰氏 (代表取締役会長) 小越 元晴氏 (代表取締役社長)</p>

※各会場とも、パネルディスカッションのモデレーターは、株式会社日経BPコンサルティング取締役 斎藤 聡 氏

主催 **独立行政法人 中小企業基盤整備機構**

後援 中小企業庁、金融庁、東北経済産業局(仙台開催)、近畿経済産業局(大阪開催)、九州経済産業局(福岡開催)、日本商工会議所、全国商工会連合会、全国中小企業団体中央会、(一社)全国地方銀行協会、(一社)第二地方銀行協会、(一社)全国信用金融協会、(一社)全国信用組合中央協会、全国信用協同組合連合会、(株)日本政策金融公庫

お申し込みはWebまたは裏面のFAX申込用紙で <https://jsf.smrj.go.jp>

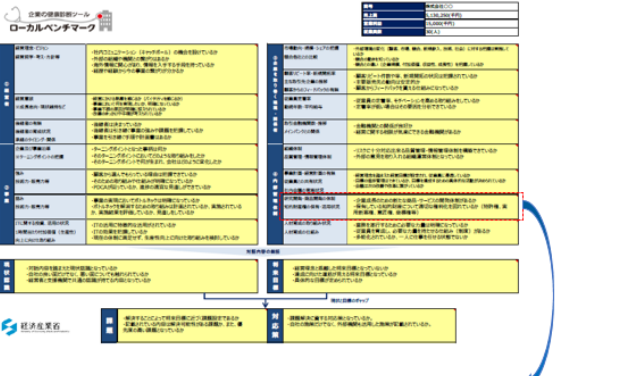
【ローカルベンチマーク】

- 第8回 ローカルベンチマーク活用戦略会議
(開催日 2018年7月26日)
内閣府から経営デザインシートを紹介

経営デザインシート(事業用)

事業概要 | 経営方針との関係 | 事業概要 | 経営方針との関係

経営デザインシートの活用について



経営デザインシートの活用が想定される場面

- 自社・対象企業のビジネスにおいて、知財(技術・ノウハウを含む)が果たしている役割を認識したい
- 新規事業の構想や事業承継の検討をしている

- 「ローカルベンチマーク」のHPと「経営をデザインする」のHPを相互リンクする予定

【知的資産経営】

知的資産経営WEEK2018

- 2018年11月から2019年2月にかけて、企業支援者等の関係団体が、知的資産経営の周知・活用に向けたイベントを集中的に行うもの

– 10月15日に参加予定団体を集めて開催したキックオフミーティングにて、内閣府から経営デザインシートを紹介

– 各団体からの要請に応じて各イベントにおいて経営デザインシートの紹介を行う予定

- 経済産業省「知的資産経営ポータル」のHPから「経営をデザインする」のHPへのリンクを張る予定



- 金融機関が企業へフィードバックする際に「経営デザインシート」を活用できることをご紹介いただく予定

知的資産経営WEEK2018 in NAGOYA

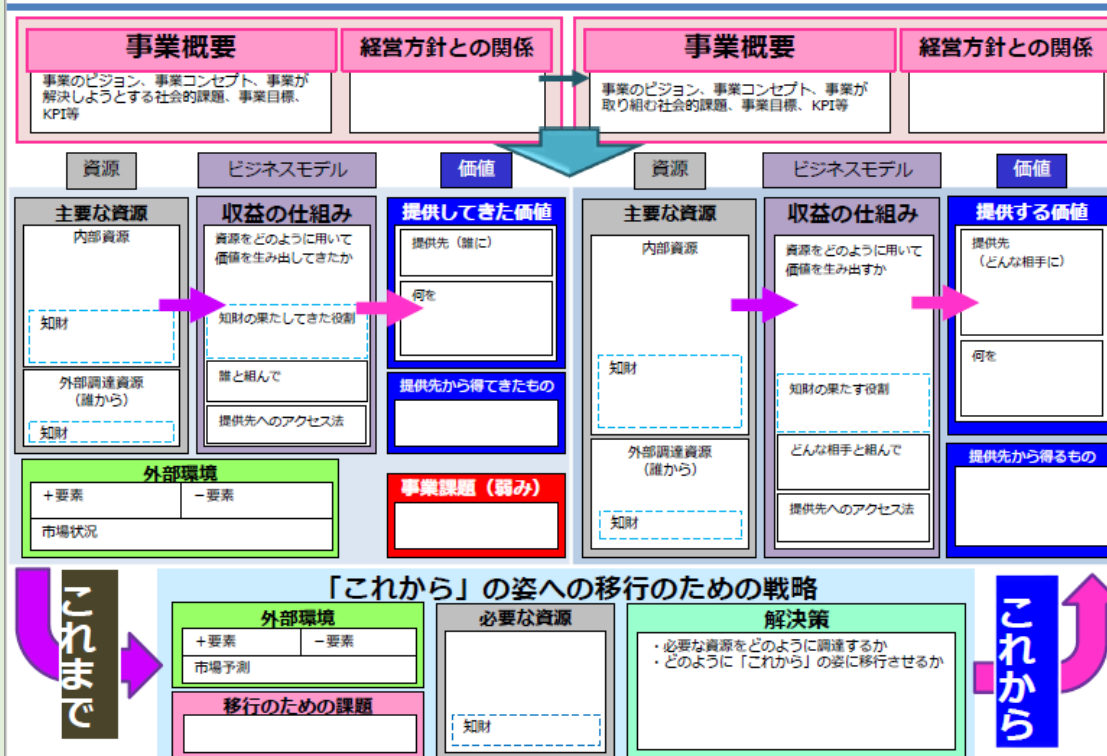
地域金融機関の明日を創る

平成30年11月16日

金融庁 地域金融生産性向上支援室長

日下 智晴

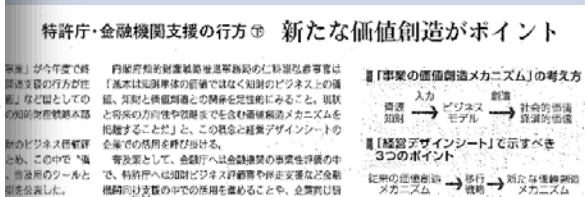
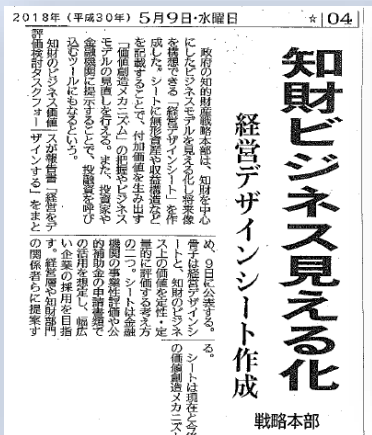
企業へのフィードバックにおける「経営デザインシート」の活用



(出所) 2018年5月 内閣府 知財のビジネス価値評価検討タスクフォース報告書【概要】

【新聞】

- ・ 日刊工業新聞 (2018/5/9)
- ・ 日刊工業新聞 (2018/5/11)
- ・ フジサンケイビジネスアイ (2018/5/25)
- ・ 日本経済新聞 (2018/9/24朝刊)

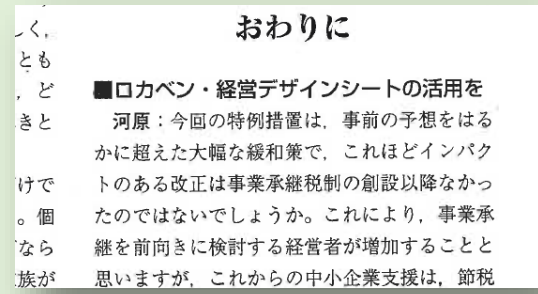


【雑誌等】

- ・ 日経クロストrend (2018/9/12)
- ・ 日経デザイン10月号 (2018/9/28)
- ・ 税務弘報10月号 「支援政策の現状と展望」

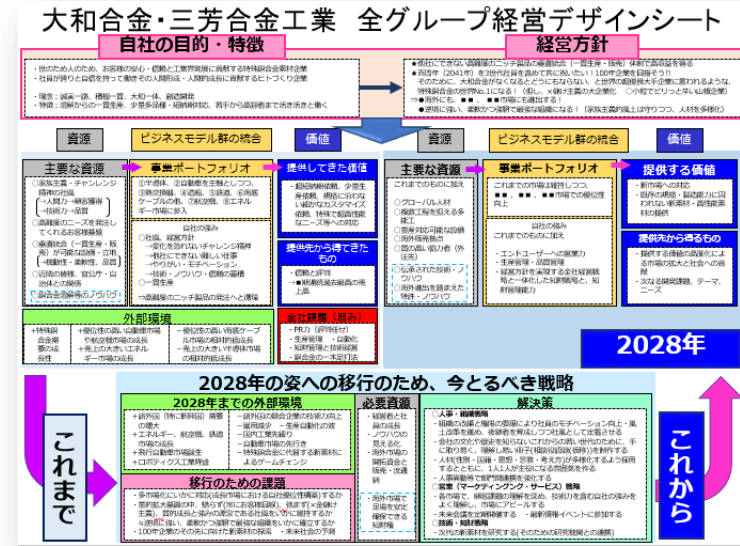
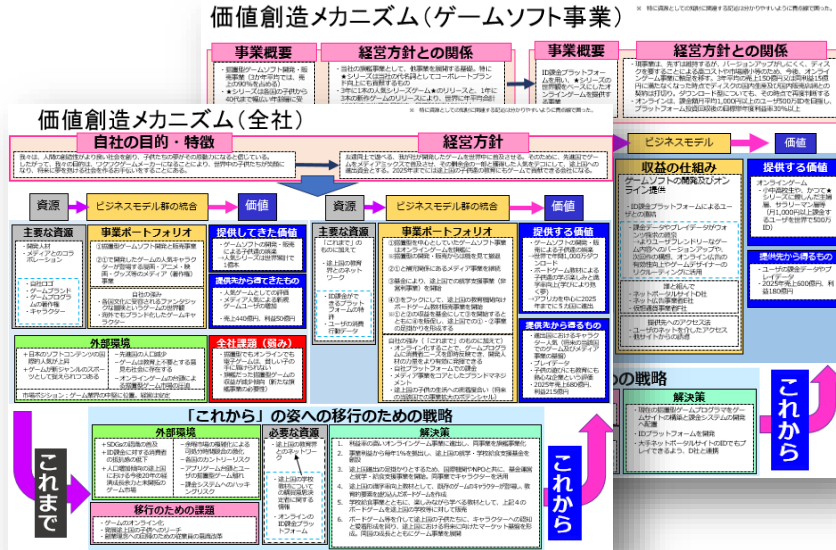


中小企業庁事業環境部財務課長 菊川人吾
 インタビュアー 公認会計士・税理士 河原万千子



(1) ゲームの仮想事例公表（8月公表） ※委員の支援による仮想事例の2例目

(2) 第1号の実例公表（9月公表） ※萩野委員による大和合金・三芳合金工業

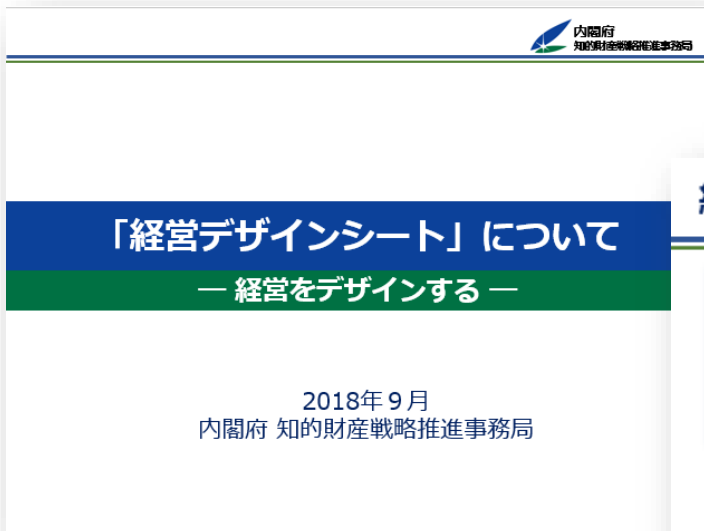


(3) 委員の支援による経営デザインシート作成・公表

(4) 調査研究事業により、今年度末には5社以上実例公表予定



本タスクフォースの報告書概要とは別に、経営デザインシートの説明資料を公表（2018/9～） ※一部修正し、現在は2018年10月版を公表



「経営デザインシート」について

— 経営をデザインする —

2018年9月
内閣府 知的財産戦略推進事務局

経営デザインシートの概要



100文字でいうと 環境変化に耐え抜き持続的成長をするために、(A) 自社や事業の存在意義を意識した上で、(B) 自社の「これまで」を把握し、(C) 長期的な視点で「これから」の在りたい姿を構想する。(D) それに向けて今から何をすべきか戦略を策定する。



経営デザインシートの作成にあたって参考資料となるテキストを作成予定

- ①「企業理念、事業コンセプト」の考え方
- ②「現在の価値を生み出す仕組み（価値創造メカニズム）の把握」の方法
- ③「将来の価値創造メカニズムの構築」の方法
- ④「移行のための戦略の策定」の方法
- ⑤「ビジネスにおける知財の役割」の考え方
- ⑥「経営デザインシートの作成ポイント」の説明

テキスト作成のための調査研究の概要

- 国内公開情報調査・ヒアリング調査
 - ・ ビジネスにおける知財活用に関する調査
 - ・ 知財の見える化に関する調査
- 経営デザインシート作成に関するテキストの作成（上記①～⑥参照）
 - ・ 入門編と応用編を作成。
- 調査報告会の開催
経営デザインシートの事例、経営デザインシート作成のためのテキスト案の内容等を周知するとともに、意見等を収集するための調査報告会。
開催時期：1～2月、開催場所：特許庁近傍、開催時間：2～3時間程度
対象：企業の経営層・知財関係者、投資家、経営学等の大学教授・エコノミスト、企業支援者、大学・TLO関係者、知財関係者等を100名以上

知的財産戦略本部のHPに専用ページを開設

【掲載コンテンツ】

- 説明会・講演会等イベント情報
- 経営デザインシート関連情報
 - 経営デザインシートの雛型
 - 活用例
 - ・ 実例（1事例）
大和合金株式会社/三芳合金工業株式会社
 - ・ 仮想事例（2事例）
- 経営デザインシートの作成経緯
(知財のビジネス価値評価検討タスクフォース)



Facebook等のSNSによる発信(予定)

【発信内容】

- ・ 講演・セミナー情報
- ・ 講演・セミナーの感想

【活用理由】

- ・ SNSユーザへタイムリーな情報発信が可能
- ・ SNSユーザによる拡散（シェア等）が可能であり、知財事務局のみではリーチできない層へもアクセス可能

◆企業から寄せられた主な意見

- 経営デザインシートは、議論や対話の契機になる
- 知財も考慮しながら経営や事業について考えられる

◆企業支援者（金融機関以外）から寄せられた主な意見

- 1枚で作業・表現できる点が魅力である
- 企業の現在及び将来の姿のコアな部分を把握、イメージ、提示するのに適している
- 企業の意欲や実力を把握しやすい

◆金融機関から寄せられた主な意見

- 経営デザインシートの考え方は、本業支援、融資を目的とした事業性評価、お客様との対話促進に役立つ

◆企業支援者（金融機関以外）から寄せられた主な意見

- 中小企業に活用してもらいたいのであれば、用語を簡単なものに置きかえるべき
- 中小企業に活用してもらいたいのであれば、記載事項を簡略化する必要があるのではないか

◆金融機関から寄せられた主な意見

- 経営デザインシートをデータベース化し、金融機関を越えて活用できるようになることを期待する
- 記入サンプルを豊富にしてほしい

【意見交換時の意見・セミナー参加者からの声】 ※所属が特定できる者のみ括弧内に所属を記載

- 全業種、全規模に応用できる
- ぜひ自社で作成してみたい
- 知財ありきでなく事業中心の考え方が参考になった
- セミナーは当たり前のことだらけだったけどシートはよかった
- 経営デザインシートのようなものを見せて、議論することは重要
- 知財価値を経営層に上手く説明できていなかったが、こういう説明が必要と感じた（知財部）
- 日本企業は、知財の活用をしっかりと考えていないので、そこを考えさせる意味はある（知財部）
- 統合報告の骨組みを作るうえで有効である（統合報告担当者）
- 正直、統合報告の作成に際しては、将来について書くことから逃げていた。でも、経営デザインシートは、右側欄が用意されていて逃げられない。（統合報告担当者）
- 知財の切り口から発展的に「経営をデザインする」に取り組んでいる点が新しくて良い（新規事業開発部）
- 大企業において、経営デザインシートに挙げたようなものは当然に作成している。ただ、ボードメンバーで十分に議論できていない（企業取締役）
- 強み、産み出す価値、何のために事業をしているか、といったことをこのようなフレームワークで把握するのは素晴らしい。当社の経営陣でも、経営においてこうしたことを考えられていない可能性がある（企画部）
- 経営デザインシートは、頭の中に将来構想がある人は一瞬で書けるが、頭の中に将来構想が無い人は一年以上かかる可能性がある

【意見交換時の意見・セミナー参加者からの声】

- プレゼン資料になりやすい点がよい。経営デザインシートを活用して、社長も営業担当者も自社について語ることが可能
- 経営デザインシートは、技術要素を強く出せば、他者との連携に活用できるし、商品要素を強く出せば、商談会に活用できる
- 1枚である点がよい。絶対に1枚は崩すべきではない。常に目につくところに置いておき、常に意識し、書き換える、を繰り返すべき
- 経営デザインシートは、例示されたものを学べばよいのではなく、自身で作成することが学習になる。経営デザインシートが気づきのツールになる
- これまで、これからの背骨を掴むには最適。背骨をイメージしていないとそもそも書けない
- 中小企業に普及させるには、要素が多すぎて難しいので簡略化したものがないのではないか
- 日本の中小企業の問題は、自社の主要な資源が見えていない、誰と組めばいいかわからない、という点にある。将来構想の前に、まずは棚卸しをしっかりとすることも非常に重要である。中小企業の使用も想定しているのであれば、もっと簡単なものがないのではないか
- 将来構想と、移行戦略を記載できる点がよい
- 経営者の想いを書ける点がよい

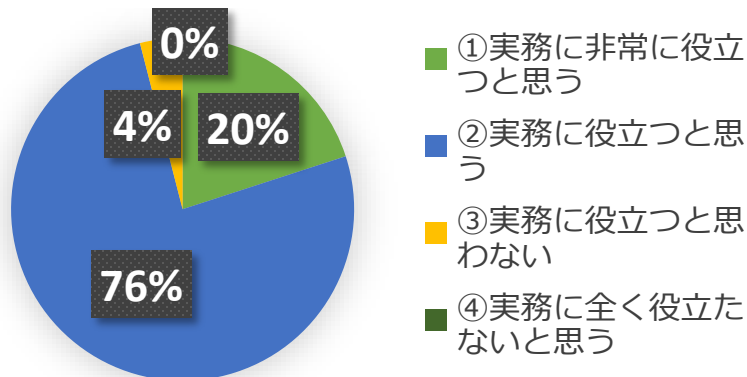
【意見交換時の意見・セミナー参加者からの声】

- シンプルでわかりやすい
- 1枚にまとまっている点が良い
- 事業会社と金融機関の共通理解促進ツールとして使っていくことが考えられる
- 既存顧客・新規見込み先との深耕に活用できそう
- ビジネス構築のためのひとつの考え方として利用できるのではないか
- 顧客に自社の有する価値を気付かせるのに役立つ
- 補助金・助成金の申請支援に活用できそう
- 申込人の現状把握のきっかけとなる
- 特に経験が浅い行員への勉強ツールに有効と思う
- 短期的ではなく長い目線で、長い取引のために活用する必要がある
- 金融機関における引継書や事業承継用の雛型として使えると思う
- 新事業の構想について適切な助言をできていないが、本来大事なことであり、そのためのたたき台として使えるかもしれない。とっつきやすく、理解を促進するのに向いている。
- 経営デザインシートを作成する目的の説明文書が必要と思われる
- 定性情報のみが記載されているので記入内容のデータベース化がネックになりそう
- 融資可否の審査において非財務情報を定性判断する際には、成長可能性と返済可能性を重視することから、シートとは異なる観点も必要
- 定性分析のシートが複数あるのでさらに新しいシートを採用するのは難しい

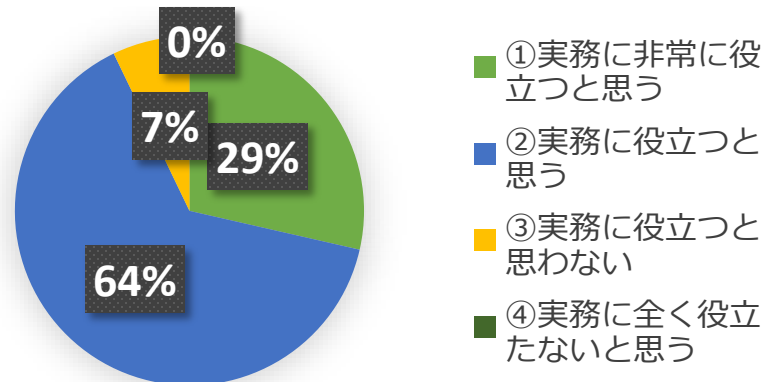


Q. 本セミナーで紹介した「経営デザインシート」の考え方は実務に役立つと思いますか

地銀・政策金融機関 (14名)



信用金庫・信用組合(25名)



Q. ①または②と回答された方に伺います。本セミナーで紹介した「経営デザインシート」の考え方が活用できると思われる場面を教えてください。 ※複数回答可

	①本業支援	②融資を目的とした事業性評価	③お客様との対話促進	④内部研修	その他
地銀・政策金融機関	71%	43%	36%	7%	—
信用金庫・信用組合	80%	52%	60%	24%	4%

- ・経営課題の整理
- ・マッチング
- ・新事業開発支援
- ・販路拡大支援

- ・人材採用支援サービス案内
- ・補助金等の申請支援

- ◆ 1 ページ目の目的及び 2 ページ目の目標を踏まえた上で、今年度の普及啓発として何をすべきか、何に注意すべきか

例 アクセス先として〇〇を追加すべき
 普及啓発の取組として〇〇を追加すべき
 普及啓発にあたって〇〇に注意すべき

- ◆ 経営デザインシートを、より活用してもらうという観点から何をすべきか

例 簡単に入力しやすくするアプリ開発・提供

- ・今年、利用者の教材、講師向けの教材等のコンテンツを揃える段階ではないか。普及させ、根付かせようとするのであれば、コンテンツを揃えることは必要
- ・経営デザインシートに取り組んでいない会社に取り組んだ場合、何をやったかをケースとして示すと良い。その上で、どこが成功要因であったかを明確にするべき
⇒調査研究にて経営デザインシート作成のためのテキストを作成予定
- ・地方と東京の情報非対称を埋める手段として、知財戦略本部のHPへの掲載やメディアを活用すべき。知財戦略本部のHPに掲載されることは地方企業にとって自信になる
- ・知財の使い方が事例を通じてわかっていくと、同時にシートも普及していくのではないか
- ・事業承継や販路拡大に経営デザインシートが使えるのであれば、経営デザインシートの活用により成功したという事例をそれぞれ示すべき
⇒作成いただいた経営デザインシートは、HPに順次掲載する
- ・価値評価TFの報告書の60秒解説をつくってはどうか
⇒経営デザインシートの説明資料を作成。「100文字でいうと」を作成。
- ・ローカルベンチマークとの違いを明確にすべき
⇒ローカルベンチマークとの違いを記載しつつ、ローカルベンチマークのHPと相互リンクする予定
- ・経営デザインシートの解説を添付した上で企業へのアンケートを実施してはどうか。アンケートが周知活動にもなる
- ・統合報告の中に経営デザインシート（又はその考え方に沿ったシート）を1枚入れてもらい、知財戦略本部のHPに公開してはどうか
- ・「〇年後に向けた未来デザイン」等のタイトルで経営デザインシートを活用した発表会をして表彰をしてはどうか

○ 今後の取組(試案)

① 政府による普及啓発

② 既存の仕組みとの連携

③ 民間による自主的な取組

経営デザイン
シート公表

2018/05 2018/11 2019/04 2020/04 2021/04 2022/04 2023/04

① 政府による普及啓発

- 例：普及啓発のための検討体の立ち上げ・開催
経営デザインシートを活用した表彰制度の創設
「○年後に向けた未来デザイン」の10分発表会の開催

② 既存の仕組みとの連携

- 企業情報の開示の仕組みとの連携（統合報告等）
- 行政手続における要件との連携(各種申請手続)
いくつかの関係行政機関に、要件としては経営デザインシートは詳細すぎる / 提出されても経営デザインシートを評価できる人材がない / 等の指摘を受けている
- 金融機関の業務との連携（本業支援、事業性評価等）

③ 民間による自主的な取組

- 例：企業が、経営課題の整理や経営方針の決定に活用 / 金融機関が、本業支援等のために活用 / 企業が、事業承継の場面において活用 / 自立化民間組織の創設(例:経営デザイン研究会)

◆ どのような既存の仕組みと連携するとよいと考えられるか

例 行政の〇〇の申請

〇〇業界における〇〇の申請

〇〇業界における〇〇の評価

◆ 経営デザインシート of 新たな活用方法としてなにがあるか

※現在の想定（将来構想、他者との連携促進、事業承継、企業支援）以外になにがあるか

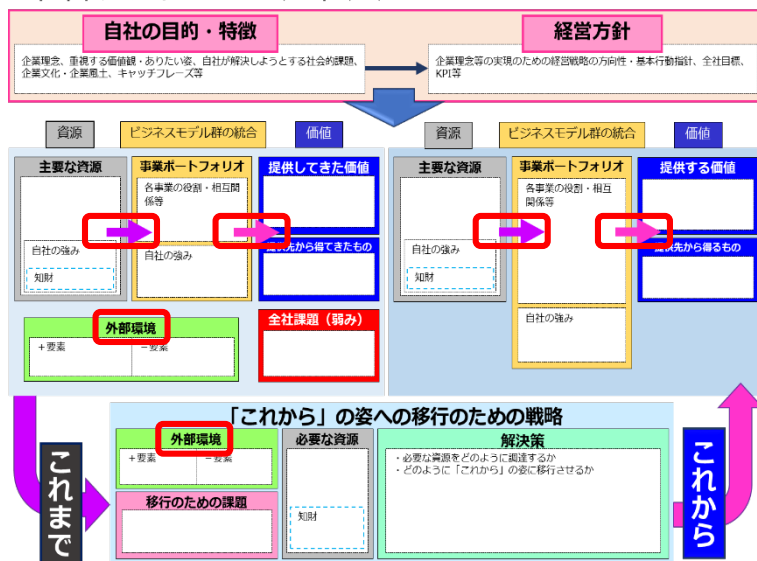
- ・事業承継のツールとして活用できる ⇒事業承継に使えることを説明資料に記載
- ・欧米はトップダウン、日本はボトムアップの文化なので、経営デザインシート等の考え方を定着させるためには、経営層への教育素材としてだけでなく、様々な層に広めていくのが良い
- ・事業用シートは、新人教育に使いそう
- ・全社シートは、大企業の幹部候補・管理職研修に活用できるのではないか
- ・中長期の事業プランを議論をするときに良い
- ・自治体の将来構想に使いそう
- ・地域の町興しを考えるのに良いのではないか
- ・政府の長期施策の検討に使えるかもしれない

- ◆ 経営デザインシートの活用を促進するという観点から、経営デザインシートのどのような点を改善すべきか
 - ・ 表現ぶりを変えた方がよいもの
 - ・ 追加すべきもの
 - ・ 削除すべきもの

【変更点】

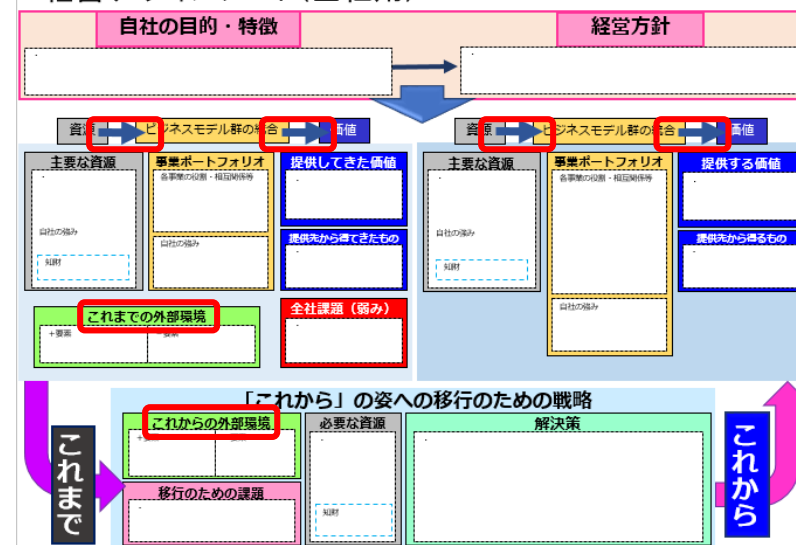
2018/5 公表バージョン

経営デザインシート(全社用)



現在 (2018/11) 公表バージョン

経営デザインシート(全社用)



【変更予定】 色については変更予定



	シート	+	-	対応済み
記載方法	全シート共通		(事例によっては) 外部環境のマイナス要素が思いつかない	
			「提供先から得たもの」とは何を指すのかわからない	何を記載するかを埋めたシートを公表
		各欄の書き方が指定されておらず、自由に書けるのがよい	記載の自由度が低い、カッチリし過ぎている	
			2つある外部環境の違いが不明	文言(これまで・これから)を追記
			「提供してきた価値」、「提供する価値」の欄にプルダウンでSDGsの17の項目を入れたらどうか	
	全社		どう書けばいいかわからない	
	1社1事業・事業	ビジネスモデルとはまさに儲けの仕組みであるから、わからないという人が分からない	「ビジネスモデル」とは何を指すのかすぐにはわからない。一般的な語用法とは異なるのではないか。	
			「収益の仕組み」というと、提供価値が金銭だけの印象を与える。「価値創出の仕組み」という表現はどうか。	
			自社が展開していない市場の課題に気づくことがポイント。こういうことはシートのどこに記載するのか。	



	シート	+	-	対応済み
記載事項	全シート共通		環境が変わっても変えたくないものがある場合、それを明記できると良い その場合は撤退基準の明記は必須	
			右側の「これから」欄について、「〇年後」というように、想定する時期を書く欄があったほうがよい	
			中小企業には要素が多すぎて難しいので簡略化したものがあったほうがよい	
	全社	新枠を設けるほどではない	ガバナンスについて書けると良い	
	その他		財務情報を分析するシートを追加してはどうか	
構成	全社・事業	会社の全貌が一覧できる全社用があれば、事業用はいらないのではないか	全社シートを使う会社は多くないので、全社用ではなく、事業ポートフォリオ組み換え用とした方が良いのではないか	
作成時期	3シート共通	提供価値の変動（が見込まれること）をきっかけに作成すると良い		
		毎年見直しをすると良い		
公表	3シート共通		右は現状の否定なので、このシートの醍醐味である時系列ギャップを活かそうとすればするほど、外には出しにくくなる	
			事業課題（弱み）は外には出しにくい	



	シート	+	-	対応済み
意匠	全シート共通		色が濃すぎる	※色の修正は実施予定
		共通項が同色なのが良い	同じ色には同じものを書けばよいと思ってしまう	
			価値創造メカニズムの中の矢印の色の違いがわからない	紺色に統一
		パワポであれば問題ない 重要なことしか書かないから良い	将来の提供価値・受取価値の枠が小さい	
			パワポの記入枠のフォントやポイントの自動設定機能が使いにくい	